

マハタの種苗生産について

養殖推進室 専門員 喜安 宏能

はじめに

硬い題名を見てまず始めに、「マハタってどんな魚だった？」と思われる方が多いでしょう。釣り番組や水族館などで目にすることはありますが、まだ、馴染みの少ない魚だと思います。

マハタはスズキ目ハタ科マハタ属に属しており、日本では北海道南部以南に分布しています。体長は90cm程度になります。非常に美味で、刺身、煮物、揚げ物、鍋物、蒸し物など、どのような料理にも向いています。アラもうまいだしが出るので、汁物にも向いています。近年では、回転ずし店のネタになったり、マハタを中心とした料理店ができるなどしており、これから皆さんが目にする機会も増えてくるでしょう。



写真1 マハタ

ここまで読んでいただいた方は、「マハタはなんとなく分かったけど、種苗生産って何？」という疑問が湧くことと思います。魚は卵からふ化し、成長して稚魚（魚の子供）になりますが、これを人の手で行うことを種苗生産といいます。その後、稚魚を大きく育てて、収穫することを養殖といいます。

愛媛県の海面養殖生産量を魚種別で見ますと、平成25年では、マダイが3万2千トン、ブリ類が2万3千トンで、愛媛県の93%がこの2魚種で占められています。しかし、これらの魚価が低迷していることから、新たな養殖魚の開発が望まれ、当センターではマハタの種苗生産を平成14年度から行っています。

種苗生産の概要

それでは、マハタの種苗生産はどのようにしているのでしょうか。

まず、親の魚を用意し、成熟させます。この親の腹部から卵と精子を押し出し、受精させます。卵からふ化したマハタは3、4日目になると餌を食べ始めるので、口のサイズに合わせて0.2~4mm程度の動物プランクトンを与えます。幼い頃はまだ親と違った姿をしています（写真2）。魚が大きくなると、いろいろな餌を混ぜて、粉や粒にした配合餌料というものを与えます。姿も次第にマハタらしくなってきます。

これだけ読むと種苗生産は簡単にできそうですが、病気、奇形など様々な問題が発生しますので、それらに注意を払いながら生産を行っています。今回は、奇形を防ぐために新しい取り組みをしましたので、紹介いたします。



写真2 生まれてから10日目のマハタ（約4mm）

奇形の原因の一つ「油膜」

マハタ、クエなどの魚には、海水中で浮力を得るための鰾（うきぶくろ）という器官があります。この鰾をつくるため、ふ化してから10日位経つと、水面に顔を出して空気を体内に取り込む「空気飲み込み」という行動を起こします。しかし、水面には餌の食べ残しや死んでしまった魚が原因で「油膜（ゆまく）」ができてしまいます。これがあると、空気が

うまく取り込めず、鰾ができなくなってしまう。このような魚は、本来、鰾ができるはずの部位周辺で骨が変形してしまい、その結果、前彎（ぜんわん）という奇形になってしまいます（写真3）。

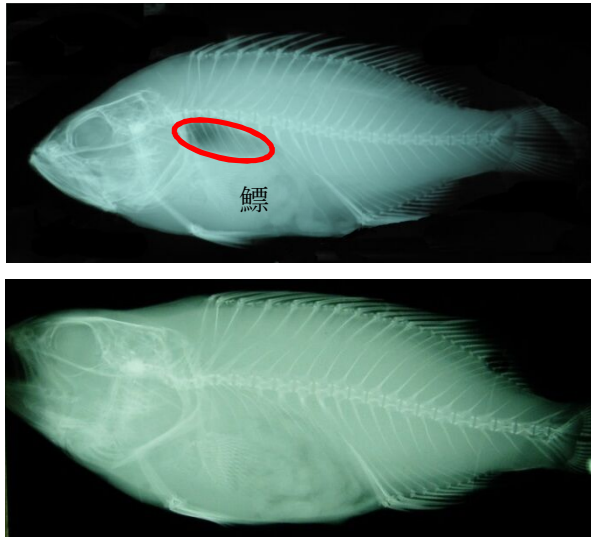


写真3 正常（上）前彎（下）マハタ

「油膜」をなくして美しい魚に！

前彎を防ぐためには油膜を取り除けばいいのですが、残念ながら簡単にはできません。ふ化してから間もない魚は、泳ぐ力がまだ弱く、表面に漂っており、これらも一緒に取り除いてしまうからです。

そこで、水槽に、表面の海水を排水する「立上りオーバーフロー」を設置しました（写真4）。これには魚が出て行かないようにネットを被せたのですが、肝心の油膜も排出されません。そのため、日中は周りに設置したエア（空気のぶくぶく）を出したり止めたりして、できるだけ魚が流れ出ないようにしながら、1日当たり1～7時間ネットを外しました。これをマハタがふ化して10日目から毎日行ったところ、17日目までにほとんどのマハタが空気飲み込みをしました。

この結果、マハタの鰾ができた率は87%となり、過去3年間に比べ、大幅に向上しました（図1）。



写真4 立上りオーバーフロー

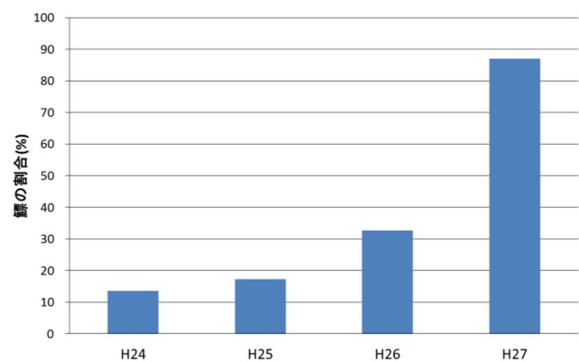


図1 マハタの鰾ができた割合

代わりに

今回、紹介はできませんでしたが、当センターではクエの種苗生産も行っております。クエもマハタと同じように鰾がうまくできないと、前彎になってしまいます。今後はマハタで成功した方法をクエにも活かしていきたいと思えます。

話は飛躍しますが、平成26年度水産白書によると、近年の生鮮魚介の世帯当たり年間支出額は平成24年度までは減少傾向でしたが、その後、増加傾向となっています。また、水産物が健康に良いということは、多くの方々に浸透しています。

皆さんが魚を食べることに興味を持っていただくのはうれしいことであり、より多く魚を食べていただけるように、「おいしく健康にいい」はもちろん、「見た目のおいしさ」にもこだわった魚づくりに努力していきます。